

JR四国3600系が「2026年度グッドデザイン賞」を受賞

—四国の鉄道を未来につなぐ、ハイブリッド式ローカル車両—

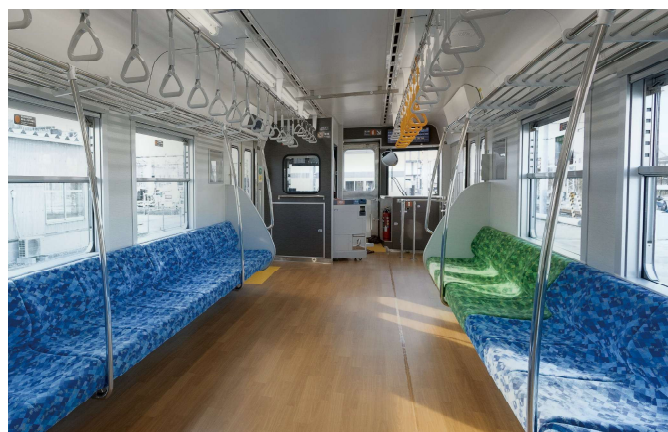
2026年10月15日

四国旅客鉄道株式会社
近畿車輛株式会社



四国旅客鉄道株式会社（JR四国）と近畿車輛株式会社が共同で開発した「JR四国3600系」が、このたび「2026年度グッドデザイン賞」（主催：公益財団法人日本デザイン振興会）を受賞しました。

3600系は、JR四国で初めてハイブリッド式を採用したローカル車両です。環境性能や快適性、安全性に加え、四国の風景に調和するデザインと、誰もが利用しやすく長く使い続けられる設計を追求。車両そのものが四国の魅力を伝える存在となり、四国の鉄道を未来につなぐ取り組みが評価されました。



10月15日から11月4日（板野駅 6時49分発 ⇒ 徳島駅 7時23分着の列車）まで、車体正面にグッドデザイン賞受賞を証明する「Gマーク」を掲出します。 ※運転状況により、掲出期間を変更する場合があります。 外観写真はGマークの掲出イメージです。

3600系のデザインと特徴 https://www.jr-shikoku.co.jp/01_trainbus/lp/3600/

- **ハイブリッド方式** エンジン発電と蓄電池を組み合わせ、モーターで走行。環境負荷を低減し、静かで快適な乗り心地を目指しました。
- **四国の未来につなぐ** 四国の海や空、山々を想起させる色彩を取り入れ、豊かな自然を表現しています。四国らしさを大切にしながら、地域鉄道のこれからを担う車両として、地域性と先進性を融合したデザインとしました。
- **誰もが利用しやすい車両** 車いすスペース、車いす対応トイレ、液晶式情報表示器を備え、さまざまなお客さまに安心してご乗車いただける車内環境を整えています。

GOOD DESIGN <https://www.g-mark.org/>

グッドデザイン賞は、1957年創設の、日本で唯一の総合的なデザイン評価・推奨のしくみです。製品、建築、サービス、システム、地域の取り組みなど、有形無形を問わず、さまざまなものごとを対象としています。受賞のシンボル「Gマーク」は、よいデザインを社会に広げるマークとして親しまれています。2026年度は第70回の節目にあたります。

【審査委員による評価コメント】 非電化区間の多い四国において、ディーゼルエンジンによる発電と蓄電池を組み合わせたハイブリッド車両を導入することは、地域鉄道を将来にわたり維持していくうえで重要な試みとして評価した。機能面では、省エネルギー性能に加え、バリアフリーやアクセシビリティ、充電設備、他社との部品共通化など、長期的な運用を見据えた設計が充実している。また、外装・内装にはブルーやグリーン、木目調など四国の豊かな自然を想起させる要素を取り入れ、鉄道を単なる移動インフラではなく、地域の魅力を伝えるメディアとして位置づけている点も評価した。